

同窓会会報

熊本大学医学部保健学科 第17号



熊本大学医学部保健学科

目次

同窓会会長あいさつ	1
保健学教育部長あいさつ	2
在校生の寄稿	3
教育・研究・地域貢献の拠点となる生命科学研究部 附属生体情報研究センターを開設	5
同窓会からの在校生（保健学科4年生）への 生活費支援	5
安田セツ子奨学助成基金運用のご報告	6
熊本大学卒業生表彰	6
国家試験合格状況	7
令和2年度卒業生の進路状況等について	8
保健学科教員紹介	9
同窓会会則・細則	9
同窓会役員	11
名簿廃止について	11

2022年度保健学科同窓会総会、 特別講演、懇親会のご案内

日時：2022年7月2日（土）（予定）
14時00分より

場所：熊本大学医学部保健学科

変更の可能性もあるためURLをご覧ください。
熊本大学医学部保健学科同窓会
<http://hoken.kuma-u.jp/index.php>

毎年7月第1土曜日に予定をしています。

後輩の教育研究支援にお力添えください。

保健学科・保健学教育部では、教育・研究の発展のために皆様のご支援を必要としています。別冊子「熊本大学基金」払込取扱票の中段にある寄附目的の「個別事業を特定する」にチェックを入れ、カッコ内に（医学部保健学科教育研究支援事業）とご記入いただき、ご寄附を賜りますようお願い申し上げます。

ご 挨拶

同窓会会長 春 田 昭 一

(済生会熊本病院／医療技術短期大学部衛生技術学科 5期)

平素より医学部保健学科同窓会へのご理解とご支援をいただき誠にありがとうございます。

また、今年も各地での豪雨による被害が相次ぎ、被害を受けられた方におきましては心よりお見舞い申し上げます。

昨年より延期されていた東京オリンピック・パラリンピックは、世論の中止、延期を求める声をよそに史上初の無観客で行われました。オリンピック関係者もバブル方式という移動制限も行われましたが、関係者からの新型コロナ陽性者ゼロは回避できませんでした。選手にも困惑が見られ、本来のパフォーマンスを発揮できなかった選手もいたことでしょう。そのような状況の中、自国開催の利を活かしての日本選手団のメダルラッシュ、日本史上最多の金メダルとなったことは喜ばしい限りです。メダルを取った選手も、取れなかった選手もみなさん一様にこのような困難な状況での開催に感謝の意を表明されていました。

一方で、我々の足元を見ると、イベントの中止、延期が絶えず、少し落ち着いたかと思えばすぐ次の波がやってくる状況です。

例年、この同窓会会報には、毎年7月に開催される同窓会総会の模様をお伝えしておりましたが、感染リスクを考慮しまして今年度も同窓会総会の開催を見送らせていただきました。これまで同窓会総会では、医療分野に限らずアカデミックなことや経験談、笑いと健康、熊本城のその後などについて、卒業生や大学関係の方、あるいは役員の方を通じて多方面の方から、時代に即し話題性などを考慮した特別講演を行なって参りました。他にも卒業生による施設紹介や在学生の研究紹介、症例をテーマとしたシンポジウムなど、卒業生の皆様が興味を持って参加していただけるような企画をしてきました。2回続けての開催見送りは誠に残念な限りです。

そして何よりも、昨年に続き今年も卒業式、入学式が中止されました。オリンピック・パラリンピックは延期開催されました。仮に中止されても次のオリンピック・パラリンピックはまたやってきます。選手の皆さんには次のチャンスがありますが、入学式、卒業式に延期はありません。新入生の皆さん、今年卒業した皆さんには心のケアも必要かと思えます。

特に今年の検査、放射の卒業生は病院実習も無いまま現場に配属になり、また、看護の皆さんはコロナ禍において患者さんと直接、接する機会も多く、不安もなお一層のことだと察します。

逼迫した医療現場で働く皆さん、いきなり荒海に投げ出された新社会人の皆さんをはじめ、卒業生の皆さんにおかれましては、健康に留意されご自愛くださいますようお願い申し上げます。来年こそは、無事に同窓会総会が開催されることを願うばかりです。

ご挨拶

保健学科長・保健学教育部長 田代浩徳

熊本大学医学部保健学科同窓会会員の皆様には、平素より保健学科・保健学教育部へのご支援、ご協力を賜り、深く感謝いたしております。保健学科は設置から18年、保健学教育部は11年を経しておりますが、今年度より、前田ひとみ先生の後任として、保健学科長（8代目）、保健学教育部長（6代目）を務めさせていただきます。何卒よろしくお願いたします。2019年末から始まった新型コロナウイルス感染症（COVID-19）のパンデミックでは、生活様式の変化やさまざまな行動制約が余儀なくされており、一日も早く日常を取り戻せるようになりますことを祈るばかりです。本学では、COVID-19感染拡大状況にあわせ、講義ではZOOMによる遠隔授業やMoodleといったe-learningを、演習では感染対策を徹底した中で最新のシミュレータ等を活用して実施しています。医療人としてどうしても不可欠な臨地実習におきましては、ワクチン接種（熊本大学の学生を対象に職域接種を実施）の展開、実習前PCR検査、体調管理（検温等）を実施し、可能な限り病院・施設実習を行うことで、リアルな医療現場を学んでもらっています。ポストコロナ時代も見据え、シミュレーション教育と臨地実習を融合した教育をより進化させ、時代に即した高度医療人の育成のための教育体制の構築に取り組んでおります。

さて、本年度、保健学科同窓会のご推薦により、熊本大学の発展、社会からの理解促進につながる顕著な功績のあった本学卒業生として、山本 トースネス みゆき氏（平成3年3月卒）が、「令和3年度 熊本大学卒業生表彰」を受賞されます。日本での3年間の外科看護臨床経験を経て1995年に単身渡米、米国テキサス州で在宅ホスピタリス、緩和スペシャリストとして活躍され、心と体の関連、スピリチュアリティ、死生観に着目した心理セラピストとして統合医療にも貢献されています。また、熊本県内においても、緩和ケア等に関する講義、セミナー、ワークショップなどを通し、地域の教育にも携わられています。このような国際的活躍を果たされました卒業生が受賞されますことは、大変光栄なことでございます。現保健学科学生の中からも、今後、世界に羽ばたける人材が育っていきますように教育環境を整えて参りたいと考えております。

今後の保健学科・保健学教育部の課題の一つとして、本学のABC棟が、前身の医療技術短期大学発足時からのもので、築45年となり老朽化しております。先日の豪雨の際にも、雨漏りといった被害がでております。現在、全面的な改修計画に取り組んでいるところですが、設備整備に関する概算要求には制約があり、増築部分や改修期間における仮校舎などは、独自の予算を準備しなければなりません。そのためにも、寄付金による自己資金の獲得が必要となっている状況にあります。熊本大学で創設されている『熊本大学基金』(<https://www.kumamoto-u.ac.jp/kikin>)の中に保健学科の教育・研究助成、教育・研究施設の整備を目的とした「医学部保健学科教育研究支援事業」があります。大変恐縮ではございますが、後輩の学習環境の充実を図るためにも、多くの皆様からの温かいご寄附を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。なお、ご寄附いただく際には、事業名を「医学部保健学科教育研究支援事業」とご指定下さい。

最後になりましたが、同窓会の発展と同窓生の皆様のご健勝とご活躍を祈念いたします。

在校生の寄稿

大学生活を振り返って

看護学専攻 4年

かわの たまき
河野 珠希

大学生活の4年間を振り返ると、様々な出会いや経験などから自分自身の成長を感じることができ、非常に充実した学生生活を送ることができました。

大学の講義や部活動、一人暮らし、アルバイトの経験などすべてが自分の成長につながったと感じます。その中で、最も印象に残っているのはコロナ禍における看護実習の経験です。

COVID-19の蔓延により実習時間の短縮や患者さんとかかわる時間が15分以内など制限されるなかで、自分たちも感染対策を十分に実施しながら行いました。看護実習では受け持ちの患者さんとのコミュニケーションが非常に重要になります。最初の数日は限られた時間の中でなかなか十分に情報収集ができず、患者さんにとって最善の看護を行うことができていたのだろうかという不安になることもありました。しかし、そのような中で、学生の実習に対して親身に指導して下さった看護師の方々や先生方、一緒に実習を乗り越えた同期の友人、そして、このようなコロナ禍の中でも私たちの実習に協力して下さった患者さんなどたくさんの方のおかげで、多くの学びを得ることができました。また、短い時間でのコミュニケーションの取り方を工夫するなど、これまでの実習で得た反省点や学びを次の実習で実践してみるということを繰り返す中で、自分の行う看護に対して、以前よりも自信をもつことができるようになりました。

今後は社会人として働いていく中で、自信を持つことができなかつたり、辛いと感じたりすることもあるかもしれませんが、実習の中で自分に自信がついた経験や、自分の周りにはたくさん支えてくれる人の存在があるということを忘れずに過ごしていきたいと思えます。

現在も多くの医療従事者が感染対策を行いながら診療にあたっています。自分も一人の医療者として、4年間、大学生活で学んだことを十分に生かして、次は自分が一人でも多くの患者さんの支えとなったり、医療や看護の発展に少しでも貢献できるようになることが今後の目標です。

大学生活を振り返って

検査技術科学専攻 4年

はしもと かなこ
橋本 華奈子

4年間の大学生活を振り返ると、入学式がつい昨日のように感じられるほどあっという間でしたが、私にとって非常に有意義な時間でした。学業以外にも部活動やアルバイトなどを通して多くの学びや経験、人々との出会いがあり、充実した4年間を送ることができました。

特に4年次の臨地実習では実際に臨床検査技師の業務を目にし、3年間で学んだ知識がどのように臨床の現場で活用されているのかを再確認することができ、断片的だった知識が少しずつ結びついていきました。実際に経験された症例について伺う機会があり、臨床検査技師は正しい検査結果を出すことや検査結果の判読を行うことも大事だが、常に検査結果の後ろには患者がいるということを忘れてはいけないと教えていただきました。また、技師の方々が強い責任感と誇りを持って仕事をされており、高い知識や技術を身につけるために日々努力されているお姿を拝見し、私自身非常に刺激を受け、今後の勉学への意欲に繋がりました。

大学卒業後は大学院に進学し、更に高度な専門教育を受けさせていただき、研究活動に従事することで、多角的な視点から課題を見出す深い思考力や得られた分析結果から事実を導き出す洞察力を身につけたいと考えています。将来は大学院で身につけた知識や能力を臨床の現場に還元し、正しい検査結果を出すだけでなく、得られた検査結果により高い付加価値を与えられるような臨床検査技師を目指したいと考えています。

この4年間、お世話になった先生方及び臨地実習で貴重な体験をさせていただいた臨床検査技師の皆様へ感謝し、今後も多くの事を学び、経験し、自身の能力を伸ばすことができるよう努力していきたいと思えます。

大学生生活を振り返って

放射線技術科学専攻 4年

いわかわ けんたろう
岩川 拳太郎

熊本大学に入学してからの日々の学生生活を振り返ってみると、学業、アルバイト、サークル活動など、多くの体験や人々との出会いがあり、とても充実した大学生活を送ることができたと思います。

入学当時は高校生のときとは異なる環境や覚えることの多さに戸惑うことも多々ありましたが、大学で新たに知り合うことができた友人や先輩たちのおかげで、現在の自分があると考えています。友人たちとはわからない点を通じて、話し合いや協力することで知識を自分のものとし、4年間学業に努めることができました。

特に4年次の病院での臨床実習では、実際に診療放射線技師の業務を目にして、3年次までに自分が身につけた知識が臨床現場でどのように利用されているかを確認することができ、自分の将来像や、身につけた知識に関する理解を深め、現場の診療放射線技師の心構えを実際に感じることができました。

また、実際に働いている技師の方々を見て、大学の講義では学ぶことのない患者に対する接遇の大切さなど、アルバイトなどでも培うことのできる技術が病院でも生きてくると思いました。臨床実習では検査中の声掛けやコミュニケーションの取り方を患者ごとに変えることで、放射線を利用した検査に対する不安を少しでも取り除き、安心して検査を受けていただく接遇を身につける良い機会となりました。

卒業研究では自分の研究のテーマに関して理解を深め、講義では得ることのない専門性の高い情報を得ることができ、研究の進捗報告では研究結果に対して様々な観点から意見をいただくことができる環境や、初めて研究をする自分たちに対して研究方法や原因の解決方法などを担当の先生に指導していただき、良い経験を積むことができました。

この4年間お世話になった先生方や臨床実習でたくさんの方を教えていただいた診療放射線技師の方々に感謝し、これまでに学んだ知識や技術、考え方をもとに、今後も自身のさらなる成長のために努力したいと考えています。大学卒業後は大学院に進学し、さらに専門知識や技術を深め、研究活動により様々な観点から考察できる能力、問題解決能力を身につけ、少しでも医療に貢献できるような人材になりたいです。

大学院生活について

保健学教育部保健学専攻検査技術科学コース

博士前期課程 2年

むらかみ かすみ
村上 華純

人工知能、AIの台頭や検査室の自動化が進む現在、臨床検査技師を取り巻く環境は大きく変化しています。そこで私は、次世代の臨床検査技師に求められる、機械化の上位に立つ思考力、そして疾患・職種横断的な考え方を身につけて医療に臨みたいと思い、大学院に進学しました。

大学院では、早朝や夜遅くまで研究に取り組むことが出来る環境の中で、多くの先生方や先輩方、そして同級生と意見交換を行いながら研究を行なっています。最初の頃は、論文を読むだけで一日が終了することも多くありましたが、日々を積み重ねることで徐々に実験の合間に論文を読む生活に変化しました。現在、生理学的、生化学的、病理組織学的な角度から総合医科学的な研究を行っており、それぞれの検査値が繋がっていることを実感する毎日です。そのような中で、目標とする臨床検査の体系的理解に少しずつですが近づいてきたように感じます。大学院の講義では、臨床検査技師として実際に働いていらっしゃる先生方から研究や臨床についてのお話を頂く機会があり、先を見据えて行動していく姿勢、今後の臨床検査業界における疾患横断的な臨床検査技師の重要性などを学び、深い次元で臨床検査について考えを深めています。

大学院は研究面だけでなく、臨床検査および医療全体に対する理解を深めると共に、患者の方々や他職種の方々との関わりなどを通して自身を大きく成長させることができる非常に有意義な時間であると確信しています。このような貴重な時間を与えてくださる、恩師の先生方に深く感謝しています。そして大学院で身につけた全てを患者の方のために生かしていけるよう、今後も精進していきたいと思っています。

教育・研究・地域貢献の拠点となる 生命科学研究部附属生体情報研究センターを開設

医療技術科学分野 生体情報解析学講座 教授 大坪 和明

限られた医療リソースの中での新型コロナウイルス感染症（COVID-19）への医療活動に医療全体が逼迫しています。拡大するCOVID-19を抑制するには感染の発生と広がりを正確に捉えることが重要であり、検査能力の強化が不可欠です。我が国でも臨時衛生検査所の開設や大学での検査能力の調査など、検査施設の拡充が進められてきました。

皆様もご承知の通り、熊本大学医学部保健学科・保健学教育部では、培ってきた医療技術や医療支援能力を地域へ還元することで社会貢献を果たしてきました。このような背景の中、令和2年12月より生体情報解析学講座では熊本県及び熊本市が実施する新型コロナウイルスPCR検査の行政検査を受託し検査業務を開始しました。

業務開始に当たり臨床検査学に基づく安全で信頼ある検査を提供するため、熊本県および熊本市と協力して、検体ID付与による2ファクター検体照合や、電子ファイルによる検査依頼／結果報告システムを導入しました。これら取り組みにより感染クラスター追跡や感染状況の把握、飲食店従業員の検査に貢献してきました。また、厚生労働省委託事業「新型コロナウイルス感染症のPCR検査等に係る精度管理調査業務」に参画し、良好な成績を得ています。

一方コロナ禍にあって、医療系のみならず様々な教育機関での学外実習が困難と

なったこと、海外渡航者の陰性証明書を発行できる施設が非常に限られていること、変異株の同定が感染対策に不可欠であること等、社会における新型コロナウイルスPCR検査の幅広い実施が求められていました。このような課題を前にして地域社会により大きく貢献することを目的として、令和3年4月23日に保健学科内に臨時衛生検査所の認定を受けた「大学院生命科学研究部附属生体情報研究センター」を開設しました。本センターでは新型コロナウイルス関連の検査を実施するのみならず、新規検査法の開発研究を行なっています。実践的な検査業務や検査技術の開発研究に大学院生がともに従事することで、社会や地域が抱える課題を解決できる高度医療専門職業人を育成しています。



生体情報研究センター開所式の様子（令和3年4月23日）

同窓会からの在校生（保健学科4年生）への生活費支援

保健学科の学生は新型コロナウイルス感染防止のため、実習前2週間からアルバイトが禁止されています。また県下に緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が発令され、飲食店が営業時間の短縮要請対象になると、飲食店でアルバイトをしている学生はアルバイトができず、生活が困窮している可能性があります。このような現状を同窓会役員は重く受け止め、令和2年の同窓

会理事会において、保健学科4年生時に実習を履修する学生に対し、同窓会から一人につき、5,000円的生活費を支援することを決定しました。その後、令和3年4月7・8日の2日間で142名の保健学科4年生である看護学専攻70名、放射線技術科学専攻35名、検査技術科学専攻37名に渡すことができましたので、ここに同窓会員の皆様に報告させていただきます。

安田セツ子奨学助成基金運用のご報告

令和2年度の奨学助成は随時、申請を受け付けておりました。同窓会役員で審議した結果、1名の保健学科看護学専攻の学生に助成させていただきました。基金の原資をご寄附くださいました安田様ならびにご家族様へ厚く御礼を申し上げますとともに、今後も引き続き有効な運用を検討してまいります。

この基金は、「経済的に困っている学生さんに使って欲しい」という安田セツ子様のご厚意を承り設立されたものです。設立の経緯については、熊本大学医学部保健学科同窓会ホームページよりご覧いただけます（「同窓会会報」第14号に掲載）。申請手続きについては、保健学科の掲示板に掲載されています。

熊本大学卒業生表彰

熊本大学卒業生表彰は、熊本大学の発展又は社会からの理解促進につながる顕著な功績のあった本学卒業生に対し、学長が行うもので、今年でちょうど10年目となります。そこで、これまでに保健学科同窓会より表彰された方々をご紹介いたします。皆様のこれまでのご活躍、ご貢献にあらためて深く感謝申し上げます。また、皆様の周りに表彰者として推薦したい方がいらっしゃいましたら、ぜひ事務局までご連絡ください。

熊本大学医学部保健学科同窓会事務局：〒862-0976 熊本県熊本市中央区九品寺4-24-1

受賞年度	受賞者	受賞理由
平成24年度 (第1回)	尾山 タカ子 様 (医学部附属看護学校 昭和38年卒業)	熊本大学での長年にわたる看護教育への尽力、学会活動やボランティア活動の継続と学生への伝承、保健学科同窓会の設立・運営への長年の貢献
	熊谷 エツ子 様 (医学部附属衛生検査技師学校 昭和41年卒業)	熊究会や保健学科同窓会の運営・存続・発展への長年にわたる貢献、学生や有識者への教育活動での功績、地域住民の健康増進のための社会活動への貢献
	城 慶子 様 (医学部附属看護学校 昭和29年卒業)	看護学生や看護職者の教育・人材育成への尽力、熊本県看護協会長や熊本県看護連盟長を歴任し、県下の看護の質向上のための組織・教育体制づくりに寄与、同窓会への長年の貢献
	洞田貫 誠志 様 (医学部附属診療エックス線技師学校 昭和42年卒業)	熊本大学医療技術短期大学部初代同窓会会長として同窓会の運営・発展に貢献、放射線医学および放射線診療技術の進歩や後進の育成への尽力、放射線技師の地位確立等に寄与
平成25年度 (第2回)	嶋田 ラク子 様 (医学部附属看護学校 昭和31年卒業)	熊本大学医学部附属看護学校、同医療技術短期大学部における学生教育への長年の貢献、附属看護学校同窓会など同窓会活動における貢献
	田中 紀美子 様 (医学部附属看護学校 昭和42年卒業)	熊本大学医療技術短期大学部、医学部保健学科、医学部の看護教育に長年携わり人材育成に尽力。保健学科同窓会の設立・発展に貢献
	田中 シゲ子 様 (医学部附属看護学校 昭和26年卒業)	熊本大学医学部附属看護学校、同医療技術短期大学部における学生教育への長年の貢献、附属看護学校同窓会など同窓会活動における貢献
	東田 善治様 (医学部附属診療エックス線技師学校 昭和42年卒業)	長年にわたる放射線医学分野の学生教育および研究者の育成、多数の学術論文および著書を発表し国内外における放射線医学の発展に大きな功績、社会活動への貢献
	武藤 勝 様 (医学部附属衛生検査技師学校 昭和41年卒業)	臨床検査技師の知識・技術の向上など後進の育成や、熊本県民の疾病予防へ寄与。熊究会会長として同窓会の存続・発展に貢献
平成26年度 (第3回)	高宗 和子 様 (医学部附属看護学校 昭和42年卒業)	熊本大学医療技術短期大学部および附属病院で看護部長として看護教育および人材育成に貢献、同窓会活動における長年の貢献、熊本県看護協会理事として看護の質向上に寄与
	戸坂 雅一 様 (医学部附属衛生検査技師学校 昭和42年卒業)	臨床検査技師の育成に尽力、職能団体での地域医療および感染症予防の進歩に寄与、同窓会の設立および同窓会誌の創刊、維持・発展に貢献
	宮里 邦子 様 (医学部附属看護学校 昭和44年卒業)	熊本大学医療技術短期大学部、医学部保健学科、大学院生命科学研究部などで長年にわたり看護教育に尽力、保健学科同窓会の維持・発展に貢献
	守部 伸幸 様 (医学部附属診療エックス線技師学校 昭和43年卒業)	熊本大学医学部附属病院などで放射線医学および放射線診療技術の進歩に大きく貢献、学生への医学教育や学術研究活動、社会活動への貢献
平成27年度 (第4回)	平田 幸徳 様 (医学部附属診療エックス線技師学校 昭和43年卒業)	熊本大学医学部附属病院で診療放射線技師として尽力されるとともに、日本放射線技師会の活動に貢献し、平成13年熊本県医事功労者表彰を受賞
	松本 ヤヨイ 様 (医学部附属看護学校 昭和43年卒業)	熊本地域医療センターの開院および医師会在宅ケアセンター設立に尽力するなど、熊本の地域医療および訪問看護の発展に貢献
	宮崎 寛子 様 (医学部附属看護学校 昭和30年卒業)	熊本地域医療センターの開院ならびに熊本県下の看護管理者への指導やボランティア活動など熊本の地域医療に貢献
平成28年度 (第5回)	木村 眞知子 様 (医学部附属看護学校 昭和45年卒業)	熊本大学医学部附属病院において初期からHIV感染者・AIDS患者の看護と療養・生活支援を行うとともに、長年ボランティア活動に尽力

受賞年度	受賞者	受賞理由
平成28年度 (第5回)	内布 敦子 様 (医学部附属看護学校 昭和51年卒業)	日本でがん患者の症状マネジメントモデルおよびそれを基盤とした統合的アプローチを紹介・普及。厚生労働省がん対策推進計画事業委託の責任者として緩和医療の普及に尽力
平成29年度 (第6回)	杉内 博幸 様 (医学部附属衛生検査技師学校 昭和45年卒業)	熊本大学医学部附属病院中央検査部で臨床化学検査の自動化や搬送ラインの設計等検査システムの構築。大学教育で後進の育成に貢献、脂質検査自動化法開発による功績により小島三郎記念技術賞など受賞
	齊藤 忍 様 (医学部附属診療放射線技師学校 昭和47年卒業)	診療放射線技師として、集団検診業務の第一線で住民の健康向上に尽力。診療放射線技師の地位確立、知識、技術の向上に尽力。特に女性会長として、女性技師の地位確立に貢献
平成30年度 (第7回)	植川 利之 様 (医学部附属診療放射線技師学校 昭和46年卒業)	熊本市市民病院中央放射線部で、診療放射線技師長として、後輩や学生の育成に大きく貢献、熊本県放射線技師会で講習会や研修会などに尽力
	本 尚美 様 (医学部附属看護学校 昭和54年卒業)	熊本大学医学部附属病院の看護部長として看護業務改善や看護学生・看護職員の育成に尽力。熊本県看護協会看護職への支援・教育等に携わり看護の質向上に寄与
	安田 セツ子 様 (熊本医科大学付属病院看護婦養成所 昭和18年卒業)	母校である保健学科同窓会へ「経済的に困窮する学生の支援に役立ててほしい」と多額の寄附をされ、安田セツ子奨学助成基金が設立された。経済的に困窮する学生の学業継続に寄与
令和元年度 (第8回)	石井 洋三 様 (医学部附属衛生検査技師学校 昭和43年卒業)	診療業務の改革ならびに他職種も含めた技術指導や教育、教育現場における臨床工学技士、臨床検査技師の育成に尽力
令和2年度 (第9回)	福島 昇 様 (医学部附属診療放射線技師学校 昭和49年卒業)	診療放射線業務の推進及び医療技術職員の育成に貢献、診療放射線技師の職能団体において地域社会活動、啓蒙活動等に尽力

また、本年度は、保健学科同窓会より以下の方が受賞されました。

山本 トースネスみゆき 様 (熊本大学医療技術短期大学部看護学科 平成3年卒業)
 受賞理由：米国テキサス州で在宅緩和ケアの臨床・教育・コンサルティングなど統合医療に多大な貢献、熊本県内においても看護系大学や医療機関等における緩和ケアの講義、セミナーなど教育活動、地域活動に尽力



国家試験合格状況

令和3年3月

試験種類	受験年度	本学新卒者			全国(含既卒者)		
		受験者数 (人)	合格者数 (人)	合格率 (%)	受験者数 (人)	合格者数 (人)	合格率(%) (うち新卒者)
看護師	28	66	66	100.0	62,534	55,367	88.5 (94.3)
	29	67	67	100.0	64,488	58,682	91.0 (96.3)
	30	70	69	98.6	63,603	56,767	89.3 (94.7)
	R元	68	67	98.5	65,569	58,514	89.2 (94.7)
	R2	68	68	100.0	66,124	59,769	90.4 (95.4)
保健師	28	19	19	100.0	7,590	7,172	90.8 (94.5)
	29	20	20	100.0	8,191	6,666	81.4 (85.6)
	30	20	20	100.0	8,376	6,852	81.8 (88.1)
	R元	20	20	100.0	8,233	7,537	91.5 (96.3)
	R2	20	20	100.0	7,834	7,387	94.3 (97.4)
助産師	28	13	12	92.3	2,053	1,909	93.0 (93.2)
	29	11	11	100.0	2,230	2,201	98.7 (99.4)
	30	10	10	100.0	2,105	2,096	99.6 (99.9)
	R元	9	9	100.0	2,105	2,093	99.4 (99.5)
	R2	13	13	100.0	2,108	2,100	99.6 (99.7)
診療放射線技師	28	35	34	97.1	2,939	2,511	85.4 (96.0)
	29	34	31	91.2	2,971	2,237	75.3 (84.8)
	30	41	41	100.0	3,202	2,537	79.2 (89.4)
	R元	36	26	72.2	2,914	2,397	82.3 (92.2)
	R2	40	38	95.0	2,953	2,177	73.7 (82.8)
臨床検査技師	28	34	31	91.2	4,739	3,729	78.7 (89.9)
	29	37	34	91.9	4,829	3,828	79.3 (90.5)
	30	39	36	92.3	4,817	3,620	75.2 (86.5)
	R元	40	33	82.5	4,854	3,472	71.5 (83.1)
	R2	39	34	87.2	5,115	4,101	80.2 (91.6)

令和2年度卒業生の進路状況等について

R3.6月現在

看護学専攻（卒業生68名）		
(就職)		
熊本大学病院	熊本県	9
済生会熊本病院	熊本県	5
熊本市役所	熊本県	2
熊本県庁	熊本県	1
熊本赤十字病院	熊本県	1
熊本市市民病院	熊本県	1
慈恵病院	熊本県	1
熊本再春医療センター	熊本県	1
人吉医療センター	熊本県	1
尚綱学園	熊本県	1
九州大学病院	福岡県	9
九州がんセンター	福岡県	2
福岡市役所	福岡県	2
九州医療センター	福岡県	1
産業医科大学病院	福岡県	1
浜の町病院	福岡県	1
北九州市役所	福岡県	1
九州病院	福岡県	1
大分大学医学部附属病院	大分県	1
中津市民病院	大分県	1
大分県庁	大分県	1
長崎原爆病院	長崎県	2
佐賀記念病院	佐賀県	1
佐賀県庁	佐賀県	1
佐賀市役所	佐賀県	1
鹿児島市立病院	鹿児島県	2
大阪大学医学部附属病院	大阪府	2
大阪市立総合医療センター	大阪府	1
大阪急性期・総合医療センター	大阪府	1
大阪市役所	大阪府	1
東京大学医学部附属病院	東京都	1
vivit株式会社	東京都	1
山陽小野田市役所	山口県	1
済生会兵庫県病院	兵庫県	1
その他（就職活動継続等）		1
就職小計		61
(進学)		
熊本大学大学院保健学教育部	熊本県	1
熊本大学大学院医学教育部	熊本県	2
熊本大学養護教諭特別別科	熊本県	3
藍野大学短期大学部	大阪府	1
進学小計		7

放射線技術科学専攻（卒業生40名）		
(就職)		
くまもと森都総合病院	熊本県	1
熊本赤十字病院	熊本県	1
熊本総合病院	熊本県	1
飯塚病院	福岡県	2
福岡新水巻病院	福岡県	1
久留米大学病院	福岡県	1
聖マリア病院	福岡県	1
国立病院機構九州グループ	福岡県	1
九州労災病院	福岡県	1
新別府病院	大分県	1
大分大学医学部附属病院	大分県	1
明野中央病院	大分県	1
愛健医院	長崎県	1
古賀総合病院	宮崎県	2
宮崎大学医学部附属病院	宮崎県	1
池上総合病院	東京都	1
駒沢病院	東京都	1
大阪住友病院	大阪府	1
市立東大阪医療センター	大阪府	1
大阪市立大学医学部附属病院	大阪府	1
済生会吹田病院	大阪府	1
洛和会ヘルスケアシステム	京都府	1
横浜市立大学附属病院	神奈川県	1
国立病院機構中国四国グループ	愛媛県	1
浦添総合病院	沖縄県	1
未定（就職活動継続・資格試験受験準備等）		3
就職小計		30
(進学)		
熊本大学大学院保健学教育部	熊本県	9
九州大学大学院	福岡県	1
進学小計		10

検査技術科学専攻（卒業生39名）		
(就職)		
熊本大学病院	熊本県	1
熊本赤十字病院	熊本県	2
山鹿市民医療センター	熊本県	1
済生会熊本病院	熊本県	1
熊本市医師会検査センター	熊本県	2
高野病院	熊本県	1
LSIメディエンス	熊本県	1
聖マリア病院	福岡県	1
産業医科大学病院	福岡県	1
川崎町立病院	福岡県	1
福岡労働衛生研究所	福岡県	1
小倉記念病院	福岡県	1
飯塚病院	福岡県	1
原三信病院	福岡県	1
済生会八幡総合病院	福岡県	1
大分岡病院	大分県	1
大分県庁	大分県	1
鹿児島県立病院局	鹿児島県	1
鹿児島市立病院	鹿児島県	1
鹿児島市役所	鹿児島県	1
佐世保市総合医療センター	長崎県	2
長崎大学病院	長崎県	1
長崎原爆病院	長崎県	1
兵庫医科大学病院	兵庫県	1
半田市医師会健康管理センター	愛知県	1
未定（就職活動継続・資格試験受験準備等）		5
就職小計		33
(進学)		
熊本大学大学院保健学教育部	熊本県	5
京都大学大学院 医学研究科	京都府	1
進学小計		6

保健学科教員紹介

(令和3年11月現在)

◆看護学専攻

【基礎看護学講座】

教授：青石 恵子 前田ひとみ
 准教授：松本 智晴 安武 綾
 講師：永田まなみ
 助教：福重 真美 森枝紗季子

【看護実践開発講座】

教授：國府 浩子 三笥 里香
 准教授：柗中智恵子 坂梨 京子
 講師：生田まちよ
 助教：島田久仁子 樋口 有紀 福山 美季

【健康科学講座】

教授：大河内彩子 河野 宏明 田代 浩徳
 准教授：秋月 百合
 講師：那須 信
 助教：金森 弓枝 島崎 梓 谷川 千春
 吉田 佳代

【大学病院からの派遣教員】

臨床講師：大島木綿子

◆放射線技術科学専攻

【医用画像科学講座】

教授：北島 美香 白石 順二
 准教授：内山 良一 藤原 康博 米田 哲也
 助教：辻田 直子

【医用放射線科学講座】

教授：荒木不次男 伊藤 茂樹 船間 芳憲
 村上 龍次
 准教授：坂本 史
 助教：大野 剛

◆検査技術科学専攻

【構造機能解析学講座】

教授：大林 光念 柳沼 裕二
 講師：伊藤 雅浩
 助教：橋本 弘司

【生体情報解析学講座】

教授：伊藤 隆史 大坪 和明 大森 久光
 准教授：田崎 雅義
 助教：梶原隆太郎 松尾 祐一 森 信子



熊本大学医学部保健学科同窓会会則・細則

熊本大学医学部保健学科同窓会会則

第1章 総則

- 第1条 本会は、熊本大学医学部保健学科同窓会（以下「本会」という。）と称する。
- 第2条 本会は、事務局を熊本市九品寺4丁目24番1号熊本大学医学部保健学科に置く。
- 第3条 本会は、会員相互の親睦を図るとともに、母校との連携を保ち、その教育の支援と発展に寄与することを目的とする。
- 第4条 本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。
- 一 会員相互の親睦及び研修に必要な事項
 - 二 母校の教育の支援・発展に関する事項
 - 三 その他必要と認められる事項
- 第5条 本会は、必要に応じて各専攻等を単位とする分科会を置くことができる。
- 2 分科会の設置及び運営に関する事項は、理事会の承認を経て各分科会が定める。

第2章 会員

- 第6条 本会の会員は次のとおりとする。

一 正会員

- イ 熊本大学医学部附属看護学校、熊本大学医学部附属助産婦学校、熊本大学医学部附属エックス線技師学校、熊本大学医学部附属診療放射線技師学校、熊本大学医学部附属衛生検査技師学校、熊本大学医学部附属臨床検査技師学校を卒業又は学籍した者
- ロ 熊本大学医療技術短期大学部を卒業又は学籍した者、熊本大学医療技術短期大学部専攻科助産学特別専攻を修了又は学籍した者、熊本大学教育学部特別教科（看護）教員養成課程を卒業又は学籍した者
- ハ 熊本大学医学部保健学科（以下「本学科」という）を卒業又は学籍した者並びに在学生
- ニ 熊本大学大学院保健学教育部（以下「大学院」という）を修了又は学籍した者および在学生

二 特別会員

- イ 本学科教員
- ロ 本学科及び前項の学校の元教員
- ハ 前項以外のもので理事会の承認を得た者

- 第7条 会員が死亡または会員たる資格を喪失したときは、退会したものとみなす。

第8条 会員が、本会の名誉を傷つけ、または本会の趣旨に反する行為をしたときは、総会において出席会員の4分の3以上の議決により、これを除名することができる。

第9条 正会員は、会費（終身）として1万円を本学科入学および大学院入学時に納入するものとする。ただし、退会または除名された会員が既に納入した会費、その他の拠出金は返還しないものとする。

第3章 役員等

第10条 本会に次の役員を置く。

- | | | |
|---|-----|-----------------------------|
| 一 | 会 長 | 1名 |
| 二 | 副会長 | 2名 |
| 三 | 理 事 | 12名
(看護6名、衛生3名、放射3名)とする。 |
| 四 | 幹 事 | 7名 |
| 五 | 会 計 | 2名 |
| 六 | 監 事 | 2名 |

第11条 役員は次の職務を行う。

- 一 会長は、本会を代表し、会務を総括する。
- 二 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときはその職務を代行する。
- 三 理事は、会員の代表として本会の運営に当たる。
- 四 幹事は、本会の実務に当たる。
- 五 会計は、本会の会計事務に当たる。
- 六 監事は、本会の会計を監査し、総会に報告する。

第12条 役員は、次により選出又は委嘱する。

- 一 会長は、総会において正会員の中から選出する。
- 二 副会長は、会長が正会員の中から推薦し委嘱する。
- 三 理事は、正会員の中から専攻毎に選出し会長が委嘱する。
- 四 幹事は、会員の中から会長が委嘱する。
- 五 会計は、正会員の中から会長が委嘱する。
- 六 監事は、理事会において正会員の中から推薦し、会長が委嘱する。

第13条 役員は、任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

- 2 補欠による役員は、前任者の残任期間とする。
- 3 役員は、任期が満了しても後任者が就任するまではその職務を行うものとする。

第4章 名誉会長及び顧問

第14条 本会に名誉会長を置き、保健学教育部長を推戴する。

第15条 本会に顧問を置くことができる。顧問は、総会の議を経て会長が委嘱する。

- 2 顧問は、重要事項について会長の相談に応ずる。

第5章 会 議

第16条 総会は、原則として毎年1回開催し、次の事項を審議決定する。

- 一 事業及び決算報告
- 二 事業計画及び予算
- 三 会則の制定及び改廃

四 役員を選出

五 顧問の推挙

六 その他の必要と認める事項

2 会長は、総会を召集し、理事会の議を経て前項に定める事項を提案する。

第17条 会長は必要と認めるとき、臨時総会を開催することができる。

第18条 総会の議長は、出席会員の中から選出する。

第19条 総会は、日時、場所、付議すべき事項等を示して召集する。

第20条 総会に出席できない会員は、あらかじめ文書をもって意見を表示することができる。

第21条 総会の議事は出席会員の過半数で決し、可否同数のときは議長がこれを決する。

第22条 総会は、議事録を作成し、これを保存する。

第23条 理事会は、会長、副会長、理事及び幹事によって組織する。

第24条 理事会は、会長が必要と認めるとき、又は理事の5分の2以上の要求があったときに開催する。

第25条 理事会は、会長が召集し、議長は会長がこれにあたる。

第26条 理事会の議事は、出席者の過半数で決する。

第27条 理事会は必要に応じて委員会を置くことができる。

第6章 会 計

第28条 本会の経理は、会費及び寄附金、その他の収入を持って充てる。

第29条 本会の会計年度は、毎年4月1日から始まり翌年3月31日に終わる。

附 則 この会則は、平成16年4月1日から施行する。

附 則 この改正は、平成19年4月1日から施行する。

附 則 この改正は、平成20年4月1日から施行する。

熊本大学医学部保健学科同窓会会計細則

1 同窓会費は1万円とし、本学科入学および大学院入学時に一括納入することを原則とする。

2 本学科同窓会費は、同窓会運営費として使用する。運営費以外に使用する場合は、同窓会理事会の承認を必要とする。

3 旅費に関しては、旅費規程に則って支給する。

4 金融機関への振込手数料は、会員の負担とする。

5 金融機関に同窓会の口座を設け、会計が通帳・印鑑を管理する。

6 同窓会費の徴収は、入学時に行い、徴収後は速やかに同窓会費支払者名簿を作成する。

7 会計は、会計年度終了時に速やかに決算報告書を作成し、監査を受ける。

8 本細則の改正は、同窓会総会で行う。

附 則 この細則は、平成16年4月1日から施行する。

附 則 この改正は、平成20年4月1日から施行する。

附 則 この改正は、平成25年4月1日から施行する。

令和3年度熊本大学医学部保健学科同窓会役員

名誉会長：田代 浩徳（熊本大学大学院保健学教育部長・保健学科長）
 会長：春田 昭一（済生会熊本病院）
 副会長：羽手村昌宏（熊本大学病院）
 溝上 幸洋（くまもと森都総合病院）

理事：
 （看護）山本 治美（熊本大学病院）
 田中紀美子（元九州看護福祉大学）
 小菌真知子（熊本保健科学大学言語聴覚学専攻）
 片平 起句（医療法人社団愛育会福田病院）
 宮里 邦子（元九州看護福祉大学）
 福重 真美（熊本大学医学部保健学科）
 （放射）荒木不次男（熊本大学医学部保健学科）
 有村 大喜（済生会熊本病院）
 大野 剛（熊本大学医学部保健学科）
 （検査）増永 純夫（元熊本中央病院）
 前田 浩（元熊本市民病院中央検査部）
 片測 達也（熊本大学病院）

幹事：
 （看護）富永 圭亮（熊本大学病院）
 島田久仁子（熊本大学医学部保健学科）
 （放射）辻田 直子（熊本大学医学部保健学科）
 （検査）田崎 雅義（熊本大学医学部保健学科）
 松尾 祐一（熊本大学医学部保健学科）
 高島 裕子（元熊本大学病院医療技術部）
 会計：松本 佳代（熊本保健科学大学看護学科）
 吉田 佳代（熊本大学医学部保健学科）
 監事：清水 恵子（熊本保健科学大学看護学科）
 橋田 昌弘（帝京大学福岡医療技術学部）
 東京連合同窓会幹事：松下 洋一（株式会社バイオクステック）
 九州連合同窓会幹事：春田 昭一（済生会熊本病院）
 松本 佳代（熊本保健科学大学看護学科）

令和3年9月に医療技術短期大学部卒業生の有志の皆様（代表：熊本大学医学部保健学科看護学専攻 永田まなみ先生）より、同窓会へ20万円のご寄附をいただきました。感謝申し上げます。

同窓会名簿廃止について（再掲）

昨年度の同窓会会報にて、以下の通り名簿廃止についてお知らせしておりました。しかし、今年度の同窓会総会が開催できませんでしたので、次年度（2022年度）同窓会総会にて最終決定を行いたいと思います。

<前年度原文>

医学部保健学科同窓会では、保健学科設立時から5年ごとに同窓会の名簿を発刊してまいりました。

卒業生の皆様の中には、同窓会名簿がお手元に届くことを楽しみまされておられる方もいらっしゃると思います。しかしながら、近年は個人情報保護法の観点から同窓会の名簿の管理も厳しくなってきたこと、名簿に個人情報を掲載希望されない方が増えてきたこと、一部で同窓会名簿が名簿業者に流れて不正に使用されていることなどから、一部の皆様から同窓会名簿作成は必要ないのではないかというご意見もいただいております。

同窓会としましては、名簿発刊にあたり、購入単価を上げないための広告をあつめ、多数の名簿購入者を募り、さらに名簿購入とは別に、卒業生や退職されました元教員の皆様方から多くの賛助金（寄附金）をいただいております。広告収入、賛助金でも不足する場合、同窓会経費として名簿作成を行うことも考慮しなくてはなりません。

このような背景から、同窓会役員会では、次回からの名簿発刊について廃止をする方向で検討しております。名簿発刊は同窓会としての一事業でございますので、廃止するにあたり、同窓会総会で正式に決定したいと考えております。

次年度の同窓会総会までに、同窓会会員の皆様のご意見をいただきたいと思っております。

名簿廃止についてのご意見は下記の住所までご連絡ください。

○熊本大学医学部保健学科同窓会事務局宛：

〒862-0976 熊本県熊本市中央区九品寺4-24-1

保健学科同窓会 会長 春田 昭一

編集後記

新型コロナウイルス感染症の長期化により、本年も、同窓会総会及び特別公演は中止となりました。延期されていきました東京オリンピックも、緊急事態宣言下、無観客という異例の開催となりました。withコロナの時代に突入する中、会員の皆様におかれましては、多大なご苦労とともに新たな方策にご尽力されておられることと存じます。長きに渡り最前線で奮闘してくださっている保健所や医療福祉現場をはじめ全ての皆様へ、尊敬の念を抱くと共に心より感謝申し上げます。今回の会誌でも、同窓生及び在校生の皆様にご貴重なお寄せをいただき

ました。更に、安田様及びご家族をはじめ、ご支援いただきました皆様方へ厚く御礼申し上げます。

来年の同窓会総会は、例年通り、7月第1土曜日に開催を予定しております。次回こそは無事に開催の運びとなり、多くの皆様にご臨席いただき、直接お会いし言葉を交わすことができますことを願っております。先の見えない緊張の日々が続きますが、コロナ終息の日に向けて、皆様の健康とご多幸を心より祈念致します。



看護職員募集 熊本大学病院看護部

熊本大学医学部保健学科同窓生の皆様へ
 “私たちと一緒に働きましょう”

私たちの病院は、看護職員一人ひとりが専門職としての能力向上につながるキャリア開発支援と生き生き働き続けられる職場づくりを目指しています。

病院も再開発が進み新しくなりました。学生時代に学んだ熊大病院で看護をしてみませんか。
 詳細はホームページをご覧ください。

